

南関東防衛

平成27年
冬号

平成27年冬号 年4回発行 第6号



特集

- 在日米軍施設・区域の返還（相模原・池子）
- 沖縄県道104号線越え実弾射撃訓練の分散・実施—北富士
- 日米共同方面隊指揮所演習
- FMブルー湘南「遊びに来ませんかスタジオへ」



東富士演習場より富士山を臨む

在日米軍施設・区域の一部返還・共同使用（相模原・池子）

「日本国とアメリカ合衆国との間の相互協力及び安全保障条約」いわゆる日米安保条約第6条では、「日本国の安全に寄与し、並びに極東における国際の平和及び安全の維持に寄与するため、アメリカ合衆国は、その陸軍、空軍及び海軍が日本国において施設及び区域を使用する」とされています。

他方で日本と米国との間では、必要のなくなった在日米軍施設・区域は日本に返還することとされています（日米地位協定第2条第3項）。



相模総合補給廠の一部土地等の返還

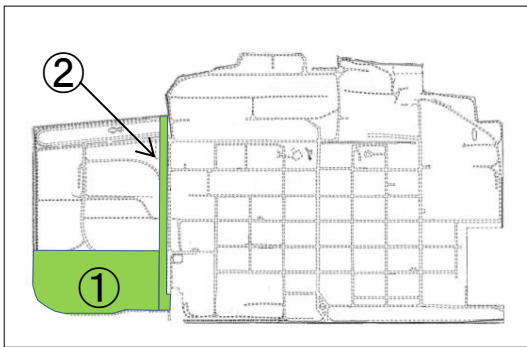
相模総合補給廠はJR相模原駅前に所在する米陸軍の管理下にある施設です。平成18年5月の日米安全保障協議委員会承認された「再編の実施のための日米ロードマップ」において、「相模総合補給廠の一部は、地元の開発のため（約15ヘクタール）、また、道路及び地下を通る線路のため（約2ヘクタール）に返還される。」とされ、平成20年6月に日米合同委員会で返還について合意された後、返還に關連して必要となる工事が開始されました。

昨年この工事が完了し、9月30日、JR相模原駅前の土地（下図①・約15ヘクタール）並びに線路及び道路用地（下図②・約2ヘクタール）が日本国政府に返還されました。これを受け、丸井南関東防衛局長は同日相模原市役所を訪問し、加山相模原市長に報告を行いました。加山市長からは、「相模原駅周辺地区のまちづくり計画の実現に向け、大いに弾みがつく」とのお言葉をいただきました。

加山相模原市長に返還を伝える丸井局長



返還された一部土地等



JR相模原駅前から見た相模総合補給廠



本返還は、「再編の実施のための日米ロードマップ」に基づく、本土での初めての返還事業であり、着実な実施に取り組んできた結果であると認識しています。

今後は、相模原市の返還跡地利用に支障をきたさないよう必要な手続き等を速やかに行い、財務局へ引き継ぐことができるよう努めていきます。

平井市長に一時使用許可書を手交する丸井局長



池子住宅地区及び海軍補助施設の一部土地等の共同使用
 逗子市が公園として使用するため申請していた、池子住宅地区及び海軍補助施設の約40ヘクタールの土地等について、昨年11月30日から共同使用が開始されました。
 昨年6月の日米合同委員会での承認を経て、現地実施協定の締結など共同使用の開始に必要な所要の手続が完了したことを受け、丸井南関東防衛局長は、同年11月27日、逗子市役所を訪問し、平井逗子市長に一時使用許可書を手交しました。
 これに対して、平井市長は、「これまでの南関東防衛局を始め防衛本省及び米側の協力に感謝するとともに、今後の日米交流に資するような公園を目指したい」との決意を述べられました。

400mトラック



野球場



テニスコート



逗子市の公園開園に係る今後のスケジュール(予定)

- 1月31日(土) オープニングセレモニー
- 2月1日(日) 市民利用開始

緑地エリア



ハイキングコース



池子遺跡群資料館



写真は共同区域内施設

第24回防衛問題セミナー

平成26年10月2日、静岡県浜松市のプレスタワー17F(静岡新聞ホール)において、第24回防衛問題セミナーを開催しました。今回のセミナーは、『日本の安全保障』をテーマに、最近の北朝鮮情勢の変化が、今後我が国にどのような影響を与えるのか朝鮮半島情勢の専門家から説明するとともに、航空自衛隊の活動状況や自衛官の教育方法について、航空自衛隊で実際に教育にあたる副司令から説明することによって、防衛省・自衛隊への理解を得るために開かれました。

当日は、主催者である丸井南関東防衛局長から開会挨拶があり、引き続き、ご後援をいただいた鈴木康友浜松市長から来賓ご挨拶を頂戴しました。

講演では、航空自衛隊第1航空団副司令である池田五十二一等空佐から「強い戦士を作るために、航空自衛隊の教育現場における奮闘」をテーマに、続いて、静岡県立大学教授である伊豆見元教授から「最近の北朝鮮情勢と日本」をテーマにご講演いただきました。

池田1等空佐からは、東日本震災における自衛官の使命感や対領空侵犯措置における自衛官の使命感について写真やグラフを使っ

て分かりやすく説明いただきました。また、パイロット教育現場の奮闘(強い戦士の育て方)として、実際にパイロット教育に携わっている池田1等空佐ならではの内容に、「日々の航空自衛隊の活動についてよく分かりました」(30代男性性)、「自分自身の会社の後輩育成にもつながる所があり、大変、ためになりました」(30代女性)等の感想が寄せられました。

伊豆見教授からは、北朝鮮問題の第一人者としての立場から、最近の北朝鮮(金正恩)体制の情勢、パフォーマンス、今後の体制等について分かりやすく分析・説明し、日本・韓国・米国それぞれの対応や、拉致・核・ミサイル問題についてもお話をいただきました。

来場者からは、「北朝鮮情勢の政策の方向性がよく理解できた」(50代男性)、「現在の北朝鮮と日本の問題点を分かりやすく解説していただきとても良かったです」(30代男性)等の感想が寄せられました。



池田副司令(上)、伊豆見教授(下)

沖縄県道104号線越え実弾射撃訓練の分散・実施―北富士

沖縄県に所在する米軍施設 キャンプ・ハンセンにおいて実施されていた155ミリ榴弾砲による沖縄県道104号線越え実弾射撃訓練は、米軍施設・区域が集中する沖縄県の負担軽減を図り、また日米安保体制の信頼性の向上を図りつつ、米軍の練度維持及び即応態勢を保持するため、平成9年度から本土の5演習場にて分散・実施されています。南関東防衛局管内では北富士演習場と東富士演習場でこの訓練が行われており、当局は訓練の円滑な実施のためのサポートを行っています。

沖縄県、キャンプ・ハンセンで実施されていた米軍による沖縄県道104号線越え155ミリ榴弾砲による実弾射撃訓練は、県道104号線をまたぐ形で射撃が行われるため、県道を封鎖して実施されてきました。

平成8年8月、日米合同委員会において、沖縄県の負担の軽減を図るなどの観点から、この訓練を本土の5演習場で分散・実施することが合意され、翌年度の平成9年度から、本土5ヶ所の自衛隊演習場（矢臼別、王城寺原、東富士、北富士及び日出生台）で訓練が実施されています。



昨年10月から11月にかけて、山梨県に所在する北富士演習場で本訓練が実施されました（準備期間等を含む）。参加人員は約390名、車両100両、砲12門による大隊規模による訓練が、11月3日から11日の間榴弾砲による実弾射撃訓練が行われました。

南関東防衛局は、管内に所在する北富士演習場及び東富士演習場における訓練時には現地対策本部を設置し、訓練の円滑な実施のため24時間体制

で支援を行っています。今回の北富士演習場における訓練においても、米海兵隊に対する訓練実施のための支援はもとより、地元自治体への説明・情報提供、陸上自衛隊や警察等関係機関との調整、演習場周辺の警備など、訓練の円滑な実施のための総合的な支援を実施しました。

（写真は米海兵隊による訓練の様子、現地対策本部の活動の様子を紹介するものです）



155ミリ榴弾砲射撃訓練



訓練参加部隊長とギフト交換を行う丸井局長



訓練の状況を地元自治体にお知らせする職員



警備打ち合わせ風景

日米共同方面隊指揮所演習

「YAMA SAKURA」

日米共同方面隊指揮所演習「YAMA SAKURA（以下YS）」は、日本への武力攻撃事態等を想定したシナリオに基づき、陸上自衛隊と米陸軍等が共同対処を実施する場合の指揮幕僚活動をコンピュータ・シミュレーションにより訓練するもので、日米の相互運用性を向上させるための重要な訓練と位置付けられています。

YSは昭和57年から32年間にわたり継続されています。陸上自衛隊の5つの方面隊が持ち回りで毎年2回実施し、奇数回数は日本で、偶数回数は米国で実施され、今回は67回目の実施となります。

今回の訓練は、昨年12月2日～同月15日の間、陸上自衛隊朝霞駐屯地で実施されました。日本側が磯部東部方面總監を部隊指揮官として陸上自衛隊約4500人、米側がランザ米陸軍第1軍団長を部隊指揮官として太平洋軍司令部、在日米陸軍司令部、米第1軍団、海兵隊など約2000人が参加しました。

南関東防衛局では、この訓練に24名が参加し、24時間態勢で日米間における各種調整、会議に参加し、武力攻撃事態における地方防衛局の役割とその対処要領等を訓練しました。

日米共同図上演習



南関東局ブースを視察する丸井局長



日米部隊指揮官への状況報告



FMブルー湘南 「遊びに来ませんかスタジオへ」

FMブルー湘南「遊びに来ませんかスタジオへ（防衛トーク）」では、毎月第3木曜日午後3時から丸井南関東防衛局長が出演し、パーソナリティの灯織（ひおり）さんとともに日本の防衛政策などについて紹介しています。昨年11月20日には元統合幕僚長で現防衛省顧問の齋藤隆氏をゲストに迎えました。海上幕僚長、統合幕僚長を歴任した齋藤氏のお話の一部を紹介します。



（現在の日本を巡る国際情勢をどう見ますか？）

一自衛隊は60周年を迎えました。安全保障環境は厳しくなっています。この荒波を乗り越えて行くには、日本一国で対応していくにはあまりにも荷が重すぎると思うのです。
一共通の価値観を有する国々と手を携えて行く必要があります。
一このためには集団的自衛権の問題、防衛装備品の海外移転の問題は避けて通れないと私は思うのです。この問題を「政治の駆け引きの道具とせず」、真正面から取り組んでいく必要があることを痛感しています。

（今、自衛隊に求められていることは何でしょうか？）

一自衛隊は過去約30年間「基盤的防衛力構想」の下、必死になって兵力整備してきましたが、これが若干原理主義化してきたような気がするので。一今基盤的防衛力の考えから脱し「統合機動防衛力」の考えのもと自衛隊は大きくその体制を変革させようとしています。このことは歴史の教訓からも、とても重要なことだと思います。
一自衛隊に求められているのは、大規模災害、PKO、東シナ海の問題等のグレーな事態から本格的有事への備えと、その対応すべき事態は幅広く求められています。これらに柔軟に対応するためには原理主義は絶対に排しななければならないと思っています。



写真右から、灯織さん、齋藤氏、丸井局長

米海軍横須賀基地に飛来したオスプレイ



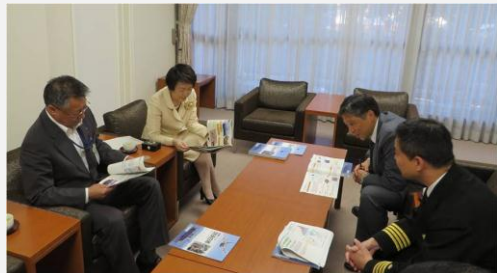
平成26年版防衛白書説明

防衛白書は、わが国の防衛政策への理解を深めていただくために毎年刊行しているものであり、今年は刊行40回目となります。南関東防衛局ではその年発刊された防衛白書の内容について管内の自治体に対して説明を行っています。

平成26年版防衛白書は、①いわゆるグレーゾーン事態の増加の傾向や北朝鮮によるミサイル発射、中国による我が国周辺海空域での活動の急速な拡大・活性化など、一層厳しさを増すわが国を取り巻く安全保障環境、②安全保障法制に係る閣議決定、国家安全保障戦略や新防衛大綱といった新たな安全保障・防衛政策、③国際協調主義に基づく積極的平和主義の観点から、我が国の安全及び地域・国際社会の平和と安定を維持するため、防衛省・自衛隊が行っている様々な取組— これらを中心により多くの方々に分かり易くお伝えできるようにコラムや図表を充実させて作成しています。

防衛白書は防衛省ホームページからどなたでも読むことができます。http://www.mod.go.jp/j/publication/wp/

10/29、丸井南関東防衛局長より林横浜市長に説明を行う



在日米軍従業員永年勤続者表彰

昨年10月10日、静岡県御殿場市に所在する米軍キャンプ富士において、富士地区の平成26年度在日米軍従業員永年勤続者表彰式が行われました。

この表彰式は、永年にわたり在日米軍基地に勤務してきた従業員の労をねぎらい、労働意欲等の向上を図るため日米の共催により毎年実施されているものです。

式典では、日米両国の国歌吹奏、丸井南関東防衛局長及びフルウッドキャンプ富士司令官からの式辞に続き、30年、20年及び10年勤続者の計13名の方々に表彰状及び記念品が授与されました。その後、受賞者の代表から「今後も今まで以上にキャンプ富士に貢献できるよう各職場での仕事に一層励み、一同頑張ってください」と挨拶がありました。

南関東防衛局管内では、富士地区のほか、10月15日に座間地区で、また、10月21日に横須賀地区で永年勤続表彰式がそれぞれ開催され、3地区で合計881名の方々が受賞されました。



写真左：
富士地区

写真左下：
座間地区

写真右下：
横須賀地区



米海兵隊MV-22オスプレイの米海軍横須賀基地への飛来

昨年10月25日、米海兵隊のMV-22オスプレイ1機が米海軍横須賀基地に初めて飛来しました。

同機は前日24日に普天間基地より岩国基地を經由して横田基地に到着しました。25日当日横田基地より横須賀基地に飛来し、約1時間程滞在した後横田基地に戻りました。

(左上に続く)

今年の春から南関東防衛局の一員となった11名のルーキー達。早くもそれぞれの職場で活躍する彼らを紹介します。

調達部 土木課



安永圭吾 *Keigo Yasunaga*

出身地：宮崎県
長所・短所：元気で明るいうところ。少しだけ人見知りな面があるところ。
趣味等：音楽鑑賞、映画鑑賞、ボール競技
今後の抱負：わからないことをそのままにせずどんどん質問し、日々成長していきたいです。

調達部 設備課



栗林康之 *Yasuyuki Kuribayashi*

出身地：富山県
長所・短所：思い立ったら即行動。せっかちなので仕事は丁寧に行きたい。
趣味等：車で旅行、読書
今後の抱負：向上心を失わず、気概を持って目の前の課題に一つずつ取り組んで参りたいと思っています。

調達部 設備課



松本健士朗 *Kenshirou Matsumoto*

出身地：熊本県
長所・短所：前向きにとらえることができる。優柔不断で迷いやすい。
趣味等：バドミントン、読書
今後の抱負：社会人生活一年目ということで、右も左もわからず不安ですが、まずは立派な監督官になることを目標に努力していきたいと思っています。

調達部 設備課



中尾勇人 *Yuto Nakao*

出身地：長崎県
長所・短所：明るく元気で、協調性がある。集中力があまりない。
趣味等：剣道
今後の抱負：社会人一年目で右も左も分からないが、消極的になることなく何事にも積極的に取り組み、早く先輩方とお仕事がしっかりできるような成長したい。

南 関 東 防 衛 局 紹 介

浜松防衛事務所



高橋所長を囲んで

事務所の所在する浜松市は、人口・面積共に静岡県最大を有し、東に天竜川、西に浜名湖、南に遠州灘、北には天竜の山々があり、山と海と湖に取り囲まれるように位置しています。『浜名湖観光』、『ピアノのシェアほぼ100%』、『バイク・車等の輸送機器産業』等で知られ、食においては『うなぎ・餃子』が有名で、これらを焼く匂いが漂う通りは、垂涎ものです。

管轄は、一部を除き基本的に富士川以西の静岡県であり、その中に航空自衛隊の3つの基地(浜松基地、御前崎分屯基地、静浜基地)と、2つの無線中継所(浜石岳、岳山)が所在しています。

業務は主に、浜松及び静浜飛行場近隣住民の方々からの住宅防音工事関係の照会・受付等、年3回程実施する除草等工事を含めた基地周辺の国有地の適正な管理及び関係自治体等との連絡調整を行っております。しかし、少人数の事務所のため、業務によっては所掌業務の枠を超えて対応することも多く、時には職員全員で対応することもあります。また、昨今、社会問題となっている生活用品の不法投棄が基地周辺の国有地においても見受けられることから、今後は関係団体と連携して監視にも力を入れていきたいと考えています。

丸井博 南関東防衛局長からの新年の挨拶



新年明けましておめでとうございます。皆様におかれましてはつつがなく新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

振り返りますと、昨年は南関東防衛局にとって重要な節目となる1年であったと感じます。特に大きな成果として、これまで長年の課題となっていた多くの米軍施設・区域の返還等が実現しました。

6月30日に深谷通信所の全部返還(約77ヘクタール)が実現し、9月30日には相模総合補給廠の一部土地(約17ヘクタール)が返還されました。

これに先立つ6月24日には、①座間市が座間総合病院の建設用地として使用するためのキャンプ座間の一部土地(約1.4ヘクタール)の共同使用、②逗子市が公園として使用するための池子住宅地区の一部財産(約40ヘクタール土地等)の共同使用が日米間で合意され、既に病院の建設工事の着手、公園オープンのための準備が行われています。

個人的な話となりますが、昨年初めて富士山登山に挑戦しました。富士山の世界遺産登録が大きな話題となり、当局管内に東、北両富士演習場を抱えることから富士山登頂を思い立ちましたが、いきなりの挑戦は困難と考え、当局の登山同好会のメンバーと丹沢の大山や塔ノ岳を何度か登山するなど目標をたてて努力を積み重ねた結果、7月、天候にも恵まれ、富士山頂に登頂できました。

昨年の大きな成果も同じように関係者の努力の積み重ねの結果だと思えます。御支援、御協力を頂いた全ての関係者の皆様に心より感謝申し上げます。今年も東富士演習場の第11次使用協定締結、在日米海軍の上瀬谷通信施設の返還を始めとする重要な課題が多くあります。引き続き関係自治体、住民の皆様との信頼関係を築きつつ、自衛隊及び米軍とも連携を図りながら、防衛施設の安定的使用と民生との調和を図るという当局の任務に、全力で邁進してまいる所存です。

本年もどうぞよろしく申し上げます。

イベント情報

エアフェスタ浜松

昨年9月28日(土)、静岡県の航空自衛隊浜松基地にてエアフェスタ浜松2014が開催されました。雲一つなく晴れ渡ったこの日、約10万人の人々が浜松基地を訪れました。

基地上空ではおなじみブルーインパルスによる展示飛行のほか、F15J戦闘機を始めとする戦闘機や練習機、ヘリコプターの展示飛行がおこなわれました。また、地上展示では戦闘機以外にも輸送機や早期警戒管制機など日頃目にするのでできない航空自衛隊の航空機が披露目されました。

今年も皆様のご来場をお待ちしています。



南関東防衛局広報紙「南関東防衛」平成27年冬号(第6号)平成27年1月12日発行

年4回発行 編集/発行 南関東防衛局 〒231-0003 横浜市中区北仲通5-57 横浜第2合同庁舎内
(お問い合わせ)045-211-7129